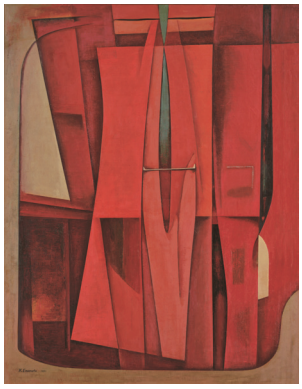
新しい時代を象徴していた女性の美術家は、なぜ歴史から姿を消してしまったのか。

「アンチ・アクション　彼女たち、それぞれの応答と挑戦」

2025 年 12 月 東京国立近代美術館で開催

東京国立近代美術館（MOMAT、東京・竹橋）では、展覧会「アンチ・アクション　彼女たち、それぞれの応答と挑戦」（主催：東京国立近代美術館、朝日新聞社）を 2025 年 12 月 16 日（火）～ 2026 年 2 月 8 日（日）に開催します。戦後に注目を浴びながらも、女性の美術家が見落とされてきた美術の歴史をめぐって、14 名の作家・約 120 点の作品を紹介する展覧会です。



榎本和子《断面（Ⅰ）》1951 年、板橋区

山崎つる子《作品》1964 年、芦屋市立美術博物館蔵
©Estate of Tsuruko Yamazaki courtesy of LADS Gallery, Osaka and Take Ninagawa, Tokyo

江見絹子《空間の祝祭》1963 年、個人蔵

本展は、1950 年代から 60 年代の日本の女性美術家による創作を「アンチ・アクション」というキーワードから見直します。戦後、「アンフォルメル」や「アクション・ペインティング」と呼ばれた抽象美術が一世を風靡し、数々の女性美術家が注目されました。しかし、力強さや豪快さといった、男性性に結びつきやすいアクションが評価の中心になるにつれ、結果的に多くの女性美術家の作品が見落とされていくこととなります。本展では『アンチ・アクション―日本戦後絵画と女性画家』（中嶋泉〔本展学術協力者〕著、2019 年）のジェンダー研究の観点を足がかりに、草間彌生、田中敦子、福島秀子ら 14 名の美術家の作品およそ 120 点を紹介します。「彼女たち」の、アクションへの対抗意識と独自の挑戦の軌跡にご注目ください。

出品作家：赤穴桂子、芥川（間所）紗織、榎本和子、江見絹子、草間彌生、白髪富士子、多田美波、田中敦子、田中田鶴子、田部光子、福島秀子、宮脇愛子、毛利眞美、山崎つる子（五十音順）

開催概要

展覧会名	アンチ・アクション　彼女たち、それぞれの応答と挑戦 英語名称：Anti-Action: Artist Women's Challenges and Responses in Postwar Japan
会場	東京国立近代美術館　1F 企画展ギャラリー
会期	2025 年 12 月 16 日（火）～ 2026 年 2 月 8 日（日）
休館日	月曜日（ただし 1 月 12 日は開館）、年末年始（12 月 28 日～ 1 月 1 日）、1 月 13 日
開館時間	10:00 － 17:00（金曜・土曜は 10:00 － 20:00）
観覧料	一　般　2,000 円（1,800 円）　大学生　1,200 円（1,000 円） 東京国立近代美術館（当日券）、公式チケットサイト (e-tix) にて販売。 ＊いずれも消費税込。＊（）内は 20 名以上の団体料金。 ＊高校生以下および 18 歳未満、障害者手帳をご提示の方とその付添者 (1 名）は無料。 それぞれ入館の際、学生証等の年齢のわかるもの、障害者手帳等をご提示ください。 ＊本展の観覧料で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「MOMAT コレクション」(4-2F) もご覧いただけます。
主催	東京国立近代美術館、朝日新聞社
巡回	豊田市美術館：2025 年 10 月 4 日～ 11 月 30 日、兵庫県立美術館：2026 年 2 月 28 日～ 5 月 6 日
お問い合わせ	050-5541-8600（ハローダイヤル）
展覧会サイト	https://www.momat.go.jp/exhibitions/566

報道関連のお問合せ先
東京国立近代美術館 広報担当（細谷・野邉）
〒 102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
Tel: 03-3214-2597（直通）E-mail：pr@momat.go.jp